

帰国卒高校入試に備えて

SAPIA 式 早慶攻略法

毎年早慶の附属校は大変人気がある。早慶の附属校はある意味で帰国子女卒受験の最高峰であり、これらの学校に合格する力があればほとんどの3科目入試の難関校が射程距離に入ってくる。そこで SAPIA の先輩受験生達がどのようにして早慶合格を勝ち得たか、「SAPIA 式」早慶攻略法を伝授しようと思う。

早慶の附属校の試験問題は、一般受験生と共通問題（慶應 SFC を除く）であり、かなりの難問である。まず、第一歩として、CKT 模擬テストで成績優秀者欄に名前が載るようにしよう。偏差値 61 程度である。出来れば特待生になることが望ましいが、最近は SAPIA の生徒のレベルも高くなり、特待生になるのは大変である。そこで特待生は無理でも、その次の段階として偏差値 66 程度をキープできるようになりたい。また、SAPIX の実力模試で偏差値 50 以上を取ることが目安である。これがクリアできれば、早慶合格の可能性ありと判断される。

何年前か、U 君という生徒がいた。彼は努力家であったがクラスで中位の成績で、あまり学力に自信が持てないでいた。しかし、中3の9月に実力模試の結果を持って SAPIX の説明会に行き、説明会の後で SAPIX の先生に相談したところ、「（SAPIX の実力模試で）偏差値が 50 あるのだから思い切って早慶の附属校に挑戦したら」というアドバイスをもらった。そして4ヶ月後慶應義塾高校の入試で補欠のD、繰上げ合格で同高校に入学、3年後に卒業し、立派な慶應の大学生となった。

科目別に言えば、英語は英検準一級を持っていることがほぼ必須条件となってきた。ADVANCED クラスを終了することが目安である。（SFC や義塾、早稲田本庄は特に英語重視である。）数学は基礎をしっかりと固め、中1、2の頃から、少しずつ入試レベルの問題に挑戦すべきである。中1、2から難関の授業を履修し、中3になったら受験数学で特訓を受けよう。国語はかなり難解な文章が課される。できれば漢字検定2級を目指したい。古文が出題される学校もある。特に慶應系は漢字や文法などもしっかりと取り組む必要がある。早大学院の論文試験は国語力をつけておいて、中3から論文の指導を受ければチャンスが多い有利な試験であると言える。

早慶に限らず、帰国卒受験はチャンスの宝庫。早くから自分なりの目標を決めて一杯取り組もう。

（09年度 SAPIA ニュースレター 3月号より）